

## エネルギー環境理工学グローバル人材の育成を目指して

Collaborative Graduate School Program for Global Human Resources Development in Energy and Environmental Science and Technology



### 九州大学キャンパスアジアプログラム ニュース第1号をお届けします。 故寺岡靖剛教授、追悼号

たいへん悲しいことですが、キャンパスアジアニュースの第1号が、プログラム運営責任者であられた寺岡先生のご急逝をお知らせし、先生を追悼する号となりました。

本号では、これまでのキャンパスアジアの主な行事日程にあわせて、プログラムに携わられていた、在りし日の寺岡先生のスナップショットを集めました。にこやかな先生のお顔を見るにつけ、惜別の念が増すばかりですが、在りし日の先生を思い出していただき、追悼の念を共有させていただければ有り難く存じます。



**ニュース** 第3回サマースクールが上海交通大学主催にて8月11-22日の間で開催され、成功裏に終了しました。



サマースクール冒頭、寺岡先生のご冥福をお祈りするため、全員で黙祷を捧げました。

キャンパスアジアサマースクールは、通常の修了年限内に、2つの大学にて同時に修士号(ダブルディグリー:DD)を取得できるようにするため、故寺岡先生がお知恵を絞られて実現したものです。

DD候補学生は、2回のサマースクールに出席し、2つの大学に共通する単位として、6単位を取得することになっています。

また2年目のサマースクールでは修士論文研究の中間審査が行われます。今年度はDD第1期修了生となる予定の学生に対して審査が行われました。







サマースクールにて小テスト解答中。




## 主な行事

寺岡先生の御役割

### 2012年

- 3月12日 キャンパスアジアプログラム発足調印式  1
- 12-13日 スプリングセミナー **主催者**  2
- 4月 6日 入学式 キャンパスアジア紹介 **勧誘**
- 8月16-26日 サマースクール(PNUにて) **主催者**  7
- 11月 4日 阿蘇・熊本での校外学習 **主催者**
- 11月28日 KU-PNU PDCA 委員会  5

### 2013年

- 2月 1日 釜山-福岡フォーラム **キャンパスアジア紹介**  8
- 8-9日 長崎にて校外学習 **主催者**  9
- 三菱重工長崎造船所見学、原爆資料館訪問
- 18-19日 14th CSS-EEST セミナー **共催者**
- 20日 PNU, SJTU学生への留学修了証(Certificate)授与
- 4月 1日 ダブルディグリー (DD) 授与可能なEESTコース正式発足
- 8日 入学式 キャンパスアジア紹介 **勧誘**
- 8月17-28日 サマースクール(KUにて) **主催者**  3
- 11月25-27日 15th CSSセミナー(SJTUにて) **共催者**  4

### 2014年

- 2月22-26日 スプリングセミナー **主催者**
- 三菱重工長崎造船所見学、原爆資料館訪問
- 7月 2日 **寺岡先生ご逝去**
- 5日 故寺岡先生ご葬儀
- 18-19日 校外学習
- トヨタ(宮田工場)、トソー見学
- 21日 故寺岡先生学府葬
- 8月11-22日 サマースクール(SJTUにて)
- 8月27日 KU生6名 PNUへ半期留学
- 9月10日 KU生6名 SJTUへ半期留学


### 今後の予定

- 11月13-15日 16th CSS(濟州島(PNU主催))
- 12月初旬 PNU留学生 修士論文発表審査
- 12月31日 DD生 修士論文(英語)提出


### 2015年

- 1月中旬 SJTU留学生 修士論文発表審査
- 2月中旬 DD生 最終審査
- PNU生修士課程修了予定
- 3月初旬 SJTU生修士課程修了予定
- 25日 KU生修士課程修了予定




2012.3.12 調印式  
キャンパスアジアプログラムの  
正式発足  1




2012.3.13 調印式後のスプリングセミナーにてプログラムの紹介  2



2013.08.21 サマースクール in KU  
KU 阿蘇研修所の畳の部屋にて「化学平衡論」を講義。  
先生の講義は学生の評価が最も高いものでした。  3



2013.11.27 CSS 開催時に、SJTUの留学希望学生に対し  
キャンパスアジアプログラムを説明。  
説明を受けた学生はすべて、DD 候補学生として2014年4月  
からKUに入学、同年前期KUに留学生として来学。  4



2012.11.28 KU-PNU PDCA 委員会終了後  
両大学の CA 関係者と共に

📷 5



2013.02.01 釜山-福岡フォーラムにて CA PNU 代表の  
Choi 教授とのツーショット

📷 8



2012.08.16 サマースクール in 釜山

📷 7



2013.08.17 サマースクール in KU にて

📷 3



2013.08.19 サマースクール校外学習. 大観峰にて

📷 3



2014.02.23 長崎校外学習

📷 9



2013.02.09 スプリングセミナーにて受講証を学生に授与

📷 9

## 追悼の辞

あれは7月2日14時頃のことでした。キャンパスに突然、救急車のサイレンの音が響きました。事故かな、学生のケガでなければ良いのにと、漠然と思っていた矢先、寺岡先生が倒れたための救急車手配であったことを知らされました。早くご搬送されることを祈っていたものの、なかなか出発されず、受け入れ病院を探すのに時間がかかるのかなと思っていたところでした。よもや寺岡先生の状況が、後に知らされたような重篤な状態であったとは、予想もつかない事でした。そのうち「動脈瘤乖離」という状況にあるとの情報もたらされ、あわててインターネットでそれを調べたりして、ただちにお亡くなりになることはなく、入院され手術を受けられれば、数週間で回復されるのでは、と楽観視していたのです。実際は自らを楽観視させていただきただけなのかも知れません。ところが、そのわずか2時間後に先生がお亡くなりになられたとの悲報を受けることになってしまいました。

キャンパスアジアのスタッフが一様に絶句した瞬間でした。しばらくは全く言葉がありませんでした。最初に浮かんできた言葉は「なんで」「なんでこんなことが」でした。こんなことがあって良いのでしょうか？これを「寿命と言って受け入れよ」と言われれば、「理不尽な」と返さざるを得ません。残念無念です。忸怩たる思いです。私にとっては「逝く順番がちがう！」と叫び続けたい気分でいっぱいでした。

先生はお元氣過ぎでした。働き過ぎでした。今となってはどうしようもありませんが、もう少しセーブしていただくようにすべきでした。とはいえ、先生にはご自分のご意志で、「ご自身でできること、やりたいこと」を実行されておられたものと拝察しており、「健康に気をつけなかったことに悔いは無い」とおっしゃっておられると信じております。

享年57歳です。すでに偉大な先生になっておられたとはいえ、今後、教育に(特に国際教育で)、研究に(エネルギー、環境分野で、触媒分野で)、さらなる高みに登って行かれたであろうことに疑いの余地はありません。月並みな言い方ですが、惜しまれてなりません。悔やまれてなりません。

ともあれ、先生はお戻りにはなりません。残された我々に出来ることは、先生のご意志を受けついで、あるいは先生の教えを受け取って、前を向いて歩いて行くことだけです。

キャンパスアジアプログラムはまさに佳境に入っており、(ダブルディグリー;DD)生は、DD取得に向けて、中間審査、修論発表、審査に突き進んでいるところです。DD生は、DD取得に向けて彼らの精一杯の努力を、我々キャンパスアジアスタッフは彼らへの精一杯の支援をいたします。とはいえ、お亡くなりになられた先生に、まだまだすがりたいのが本音です。先生、どうか彼らを見守ってやってください。また我々を見守ってください。

日本国政府が、先生が念願されておられたジョイントディグリーを認める方向で動きだしている矢先に、先生を失った事は、九大にとって甚大なる損失ですが、キャンパスアジアの発展の形が、まさに見えかかっています。先生のご遺志が活かされて行くことと信じています。

先生どうか安らかにお休みください。キャンパスアジアスタッフ一同、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

キャンパスアジアプログラムは、プログラム運営責任者を、中島英治 総理工学府長に引き継いでいただき活動を継続して参ります。否、これまで以上に活動していかなければなりません。皆様には引き続きましてのご支援、ご協力を伏して御願い申し上げます。